

十勝川中流部川づくりWS(第8回)資料

平成23年10月23日

北海道開発局 帯広開発建設部

第6回WSまでの確認事項

音更川合流点上流

川づくり案	左岸側の樹林伐採(幅10mで保全) 掘削なし
論点	—

音更川合流点下流①

川づくり案	左岸側の樹林を保全し、 右岸側を掘削
論点	伐採及び掘削範囲検討

相生中島下流

川づくり案	中洲の一部及び左岸側を掘削
論点	—

十勝川温泉下流

川づくり案	左岸の樹林を伐採・掘削し、 浅場環境創出
論点	—

相生中島上流

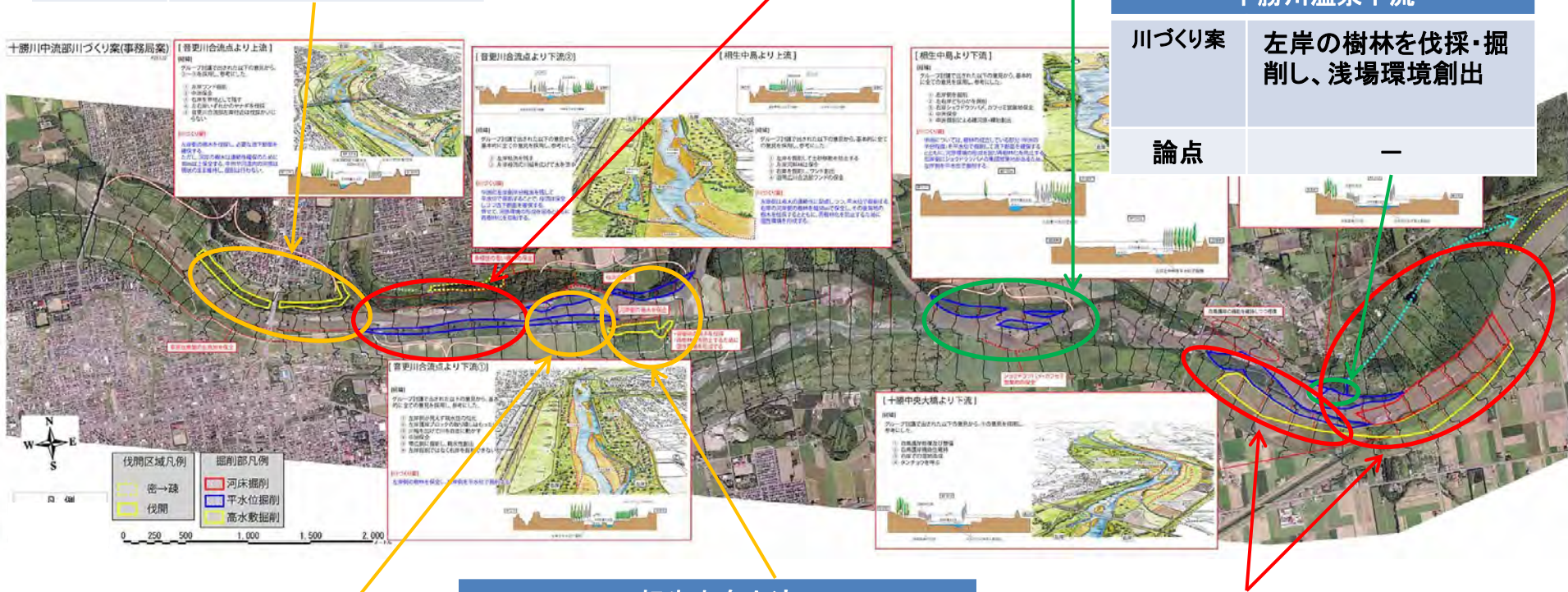
川づくり案	左岸側は樹木の連続性に配慮しつつ掘削 右岸の河岸側の樹木を幅50mで 保全し、その背後地の樹林を伐採
論点	現地を確認する

十勝中央大橋下流

川づくり案	右岸樹林を伐採し、掘削 左岸下流を疎林化
論点	右岸樹林の保全 関係機関・団体等との要調整

音更川合流点下流②

川づくり案	中洲の一部及び右岸側を掘削
論点	—



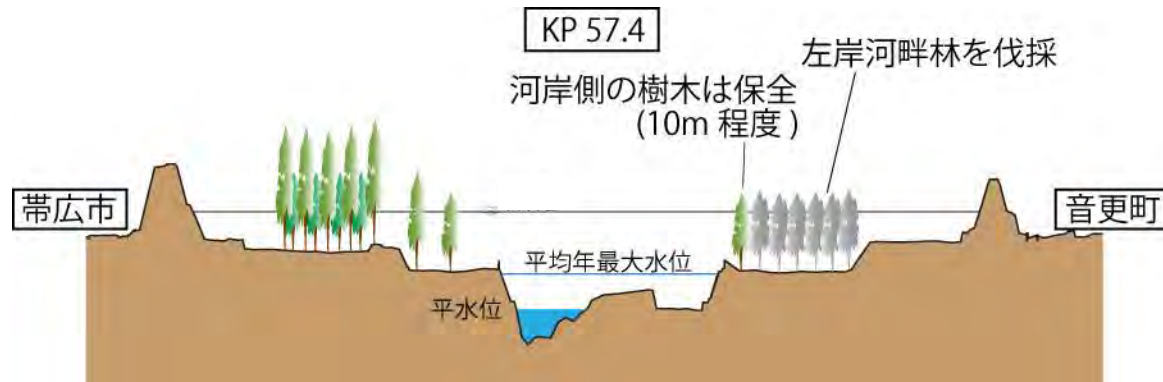
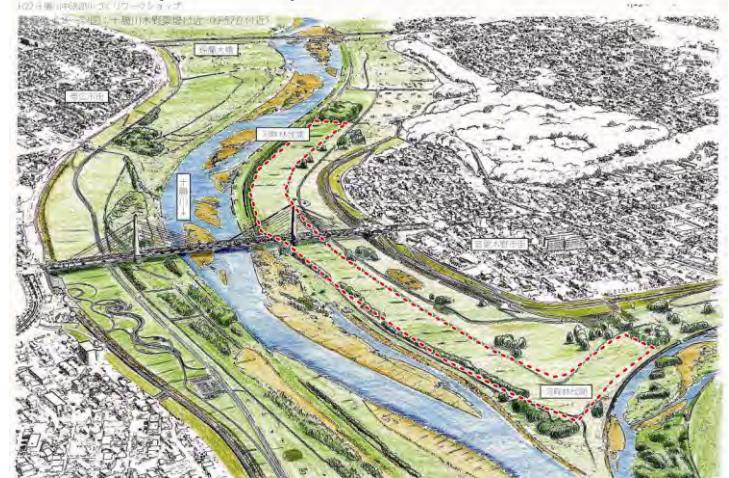
音更川合流点上流

第6回WSでの内容

◆第5回で提案した「左岸の樹木を伐採(連続性を確保するため、幅10m程度の樹木を保全)し草原環境とし、河原は保全する案」を採用。



川づくり案(第5回WS)イメージパース



試行的な取り組み(公募による伐採)の提案

試行的な取り組み(公募による伐採)の目的

◆樹木の伐採コストの縮減と資源の有効活用を図ることを目的に、地域の個人や法人等を対象に、公募を行い、選定された者によって伐採を実施してもらう取り組みを試行的に実施。

公募伐採の概要

◆応募資格

- ・周辺地域在住の個人・法人等
(自家消費が可能な方。営利目的は不可。)

◆費用負担

- ・伐採・運搬の労力、費用は応募者の負担

◆伐採時期

- ・11月～12月

(※応募者多数の場合は抽選等により決定)

今年度の取り組み(案)

◆公募面積

- ・1区画 100m² (10m×10m)
- ・50区画程度 (5,000m²程度)

◆公募時期 10月～11月頃

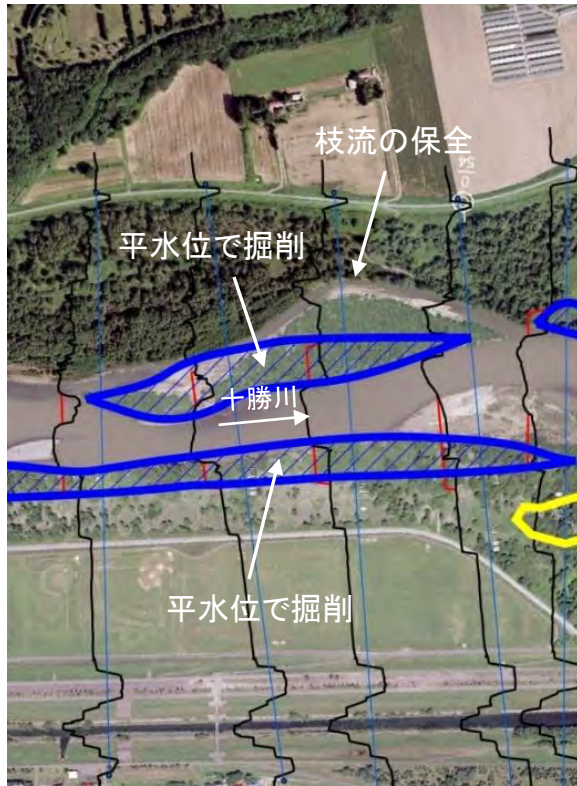
○音更川合流点上流での取り組み(案)



樹木の状況：5m×5mの範囲に20～30本程度
胸高直径10cm～15cmが3～10本程度、他は5cm程度



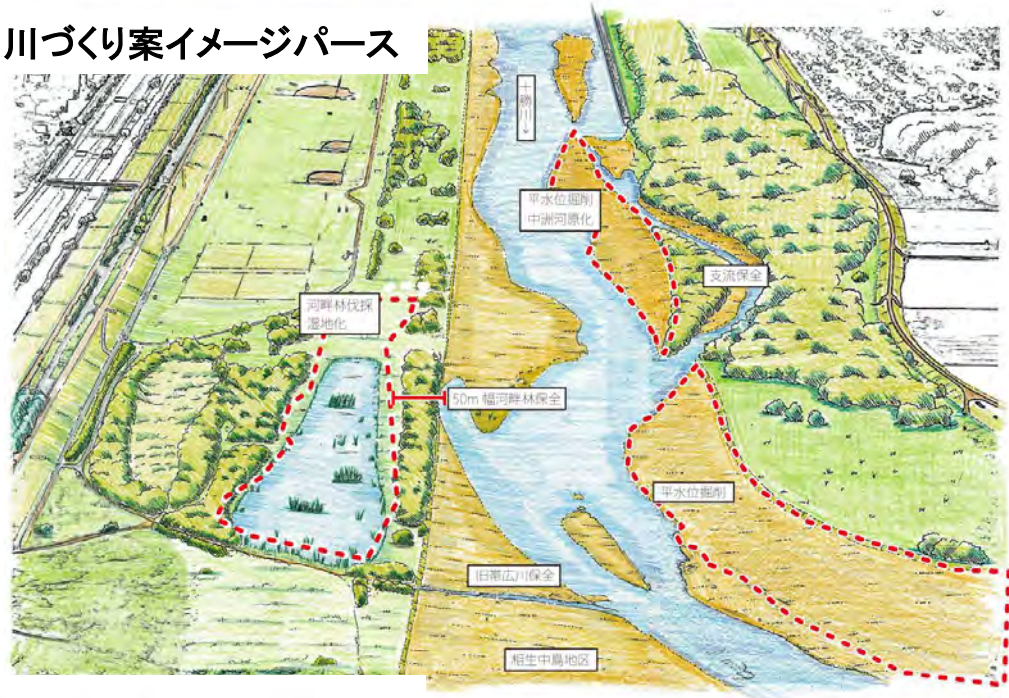
音更川合流点下流②



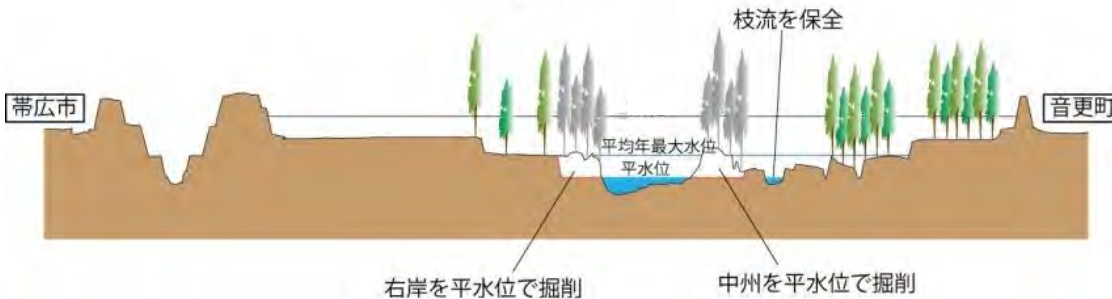
川づくり案(第5回)

中洲の左岸側半分程度を残して平水位で掘削することで、枝流は保全しつつ流下断面を確保する。
併せて河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。

川づくり案イメージパース



KP 54.4



相生中島上流の検討経緯



川づくり案(第5回)

左岸側は樹木の連続性に配慮しつつ、平水位で掘削する。
右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その後背地の樹木を伐採するとともに、再樹林化を防止するために湿性環境を形成する。

グループ討議意見

グループ	相生中島上流
A・B	OK
C	右岸樹林保全幅を少なくし、左岸掘削幅を減少
論点	右岸樹林保全幅を検討

代替案の検討

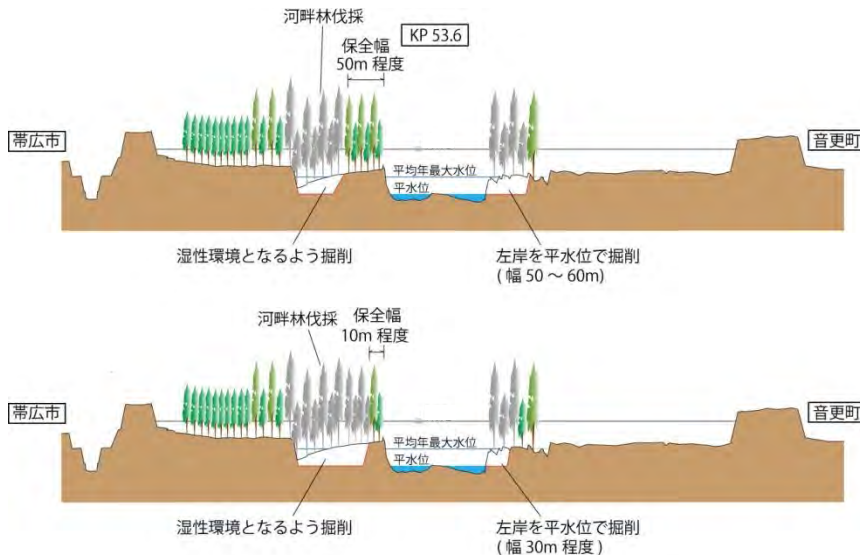
- ◆右岸樹林の保全幅を50mから10mに減した場合
 - ・左岸側の低水路掘削幅を約50~60mから、30m程度に減少することができる。

第6回WS

基本的には第5回WSで提示した川づくり案に基づいて、現地を見て(掘削範囲等を)考えながら進めていく。

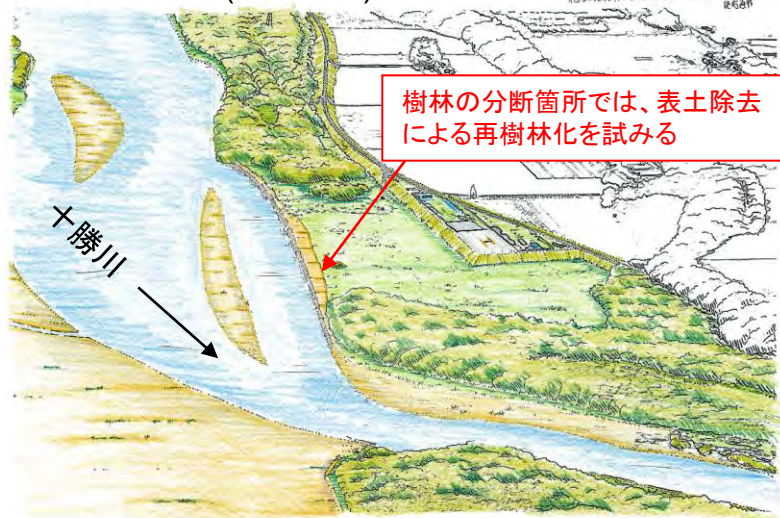
第7回WS

左岸側の掘削で河畔林の連続性が失われる箇所については、裸地化(表土除去)による樹林化を試みる等の意見が出された。

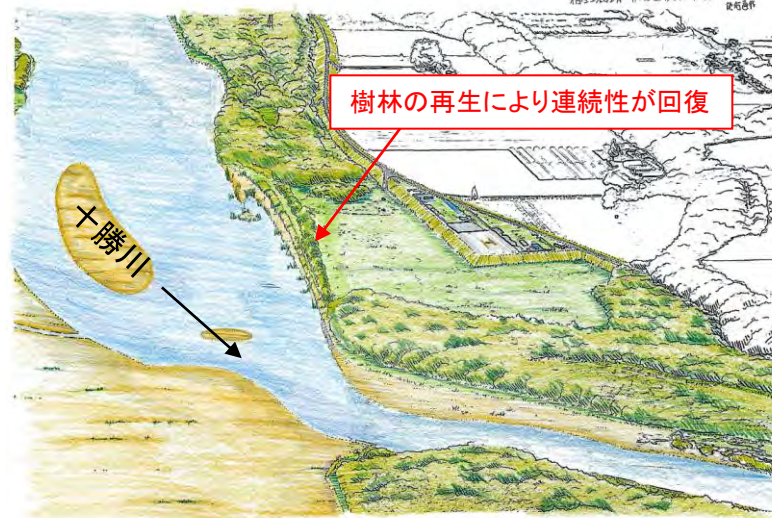


相生中島上流(左岸側)の川づくり案

イメージパース(施工直後)



イメージパース(10年程度経過後)



野生動物の移動に配慮し
樹林の連続性を確保

KP 53.6

表土を除去し、樹木
種子の活着を促す

平均年最大水位
平水位

帯広市

音更町 帯広市

音更側を掘削

現況の草原環境を保全

樹林の再生

KP 53.6

平均年最大水位
平水位

音更町

川づくり案(第8回)

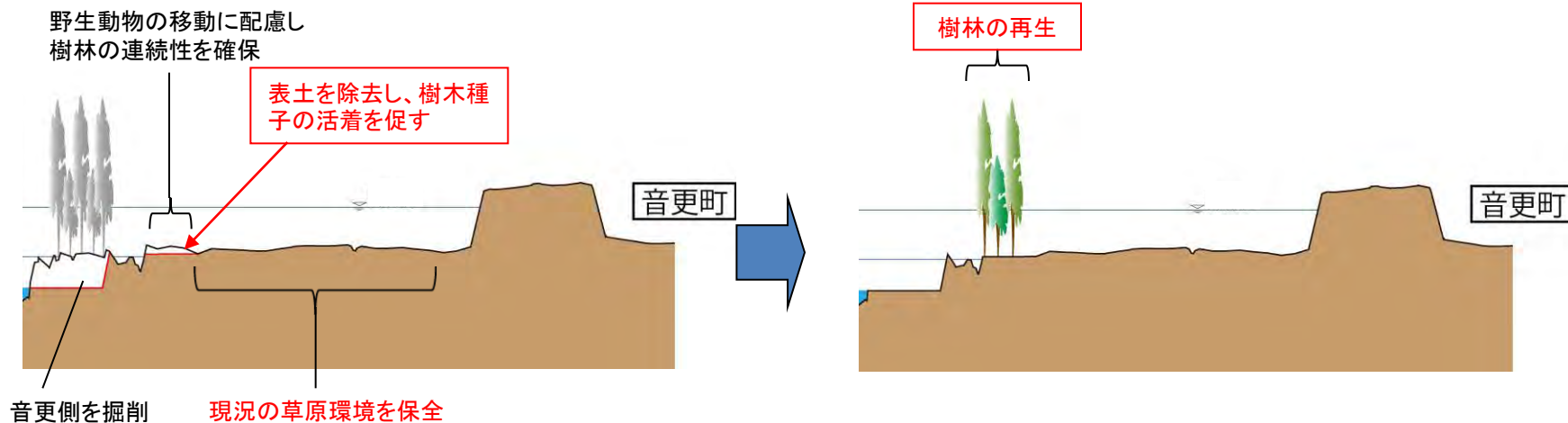
左岸側(音更側)は樹木の連続性に配慮しつつ掘削
樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため、樹林の再生を試みる

相生中島上流(左岸側)の川づくり案

樹林の連続性を回復するための措置

施工直後

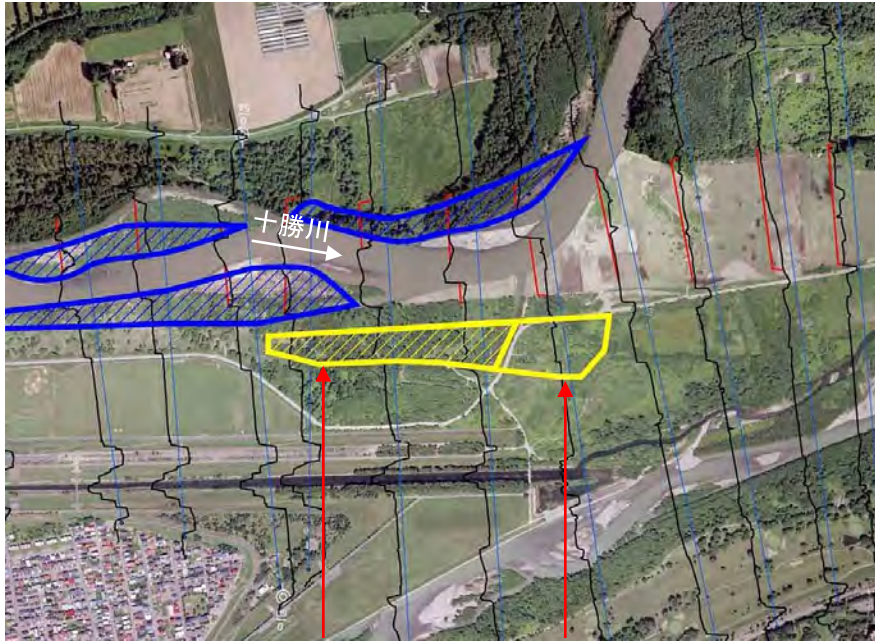
10年後



試行的な取り組み(案)の概要

1. 施工幅は、10m程度
2. 表面処理方法と定着樹木種の関係
○すき取りのみの場合、○すき取り+礫質土散布の場合、の2工法で施工
3. その他
・可能であれば、掘削(表土除去)時期と定着する樹木種の間係を確認

相生中島上流(右岸側)の川づくり案



樹木伐採
及び湿性環境創出

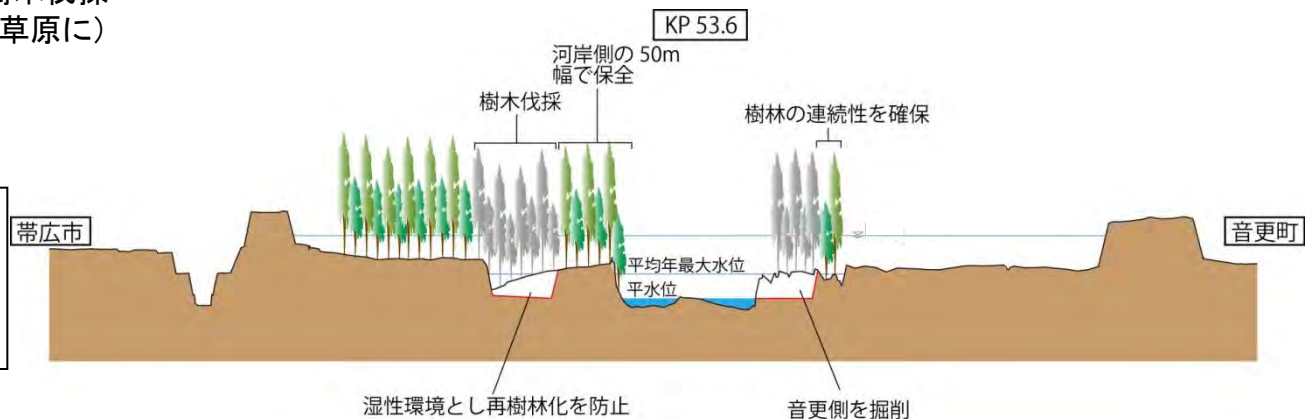
樹木伐採
(草原に)

川づくり案イメージパース



川づくり案(第5回)

右岸の河岸側の樹木を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。再樹林化を防止するために湿地環境を形成する。



音更川合流点下流①の検討経緯



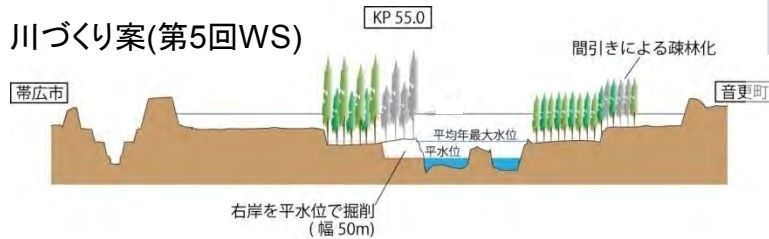
川づくり案(第5回)

左岸側(音更側)の樹林を保全し、右岸側(帯広側)を平水位で掘削する。
左岸側の高水敷の樹林を間引きし「疎」にする。

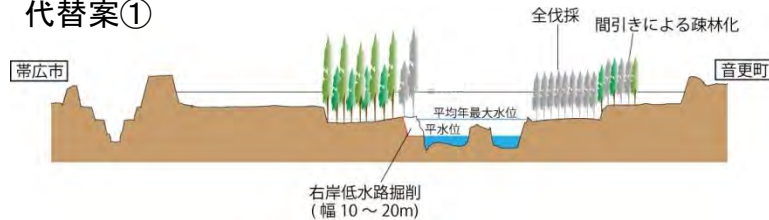
グループ討議意見

グループ	音更川合流点下流①
A・B	OK
C	<ul style="list-style-type: none"> ・左岸川側の樹木伐採で右岸掘削幅を減少 ・左岸堤防側疎林化
論点	伐採及び掘削方法検討

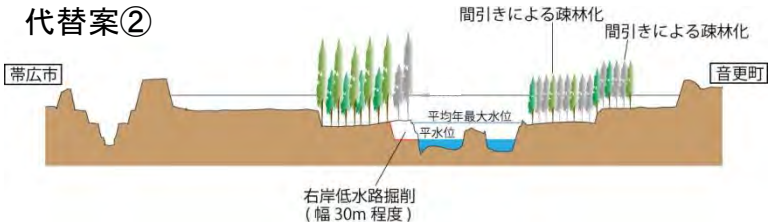
川づくり案(第5回WS)



代替案①



代替案②



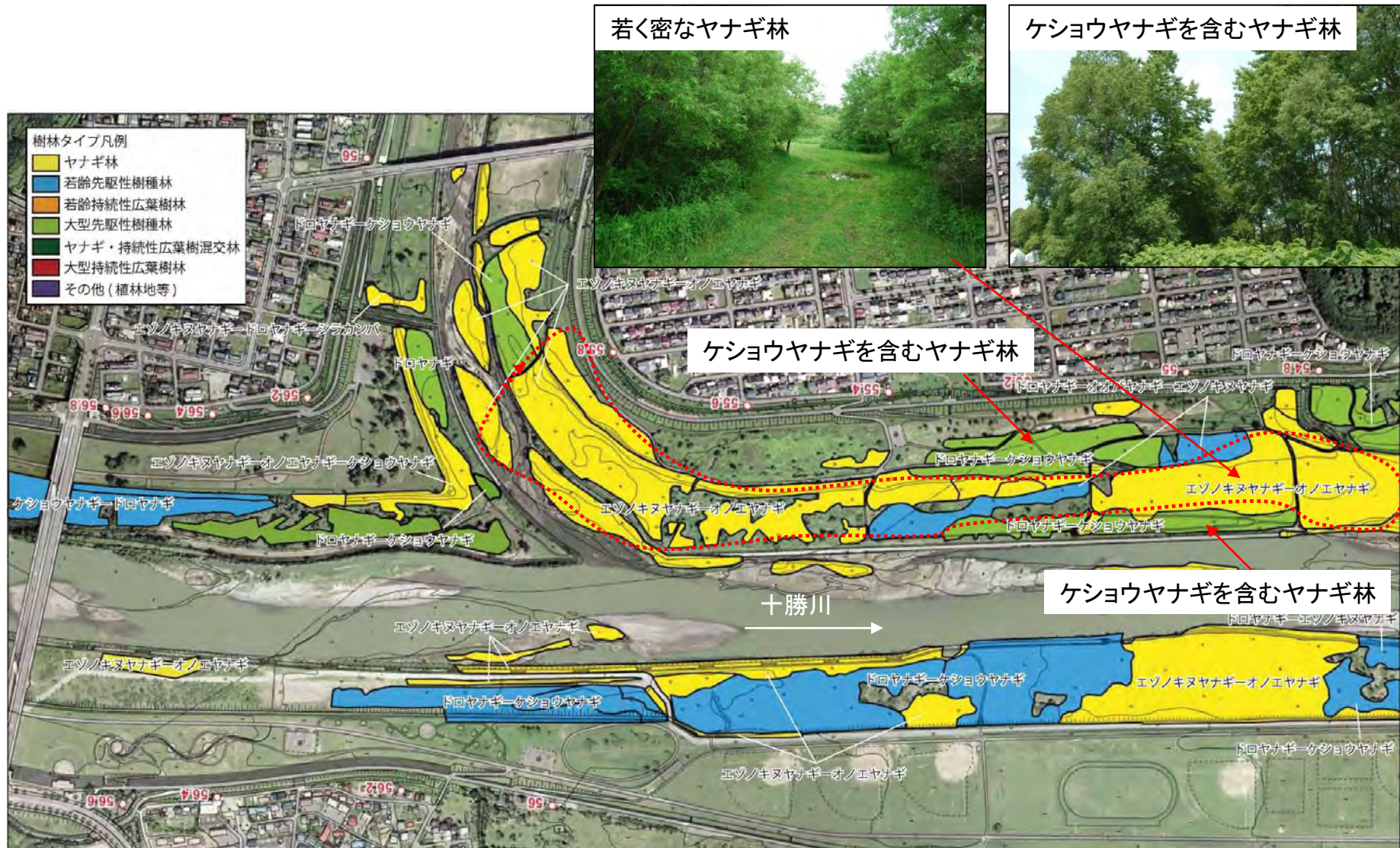
代替案の検討

- ①左岸高水敷(黄緑の範囲)の樹木を「全伐採」とした場合
 - ・右岸側の低水路掘削幅を約50mから約10~20m程度に減少することができる。
- ②左岸高水敷(黄緑の範囲)の樹木を「疎」にした場合
 - ・右岸側の低水路掘削幅を約50mから約30m程度に減少することができる。

第6・7回WS

第6回→様々な意見(いい河畔林、キツネのすみかがある等)、メンバーで現地確認の上、改めて検討。
第7回→現地確認後、左岸に若い密な樹林があること、左右岸は同質な樹林があることが確認され、「左岸の密林の解消」、「瀬・淵のある川づくり」を求める意見がだされた。

音更川合流点下流① 河畔林の状況



※現地の河畔林の状況を調査した上で、「ケショウヤナギを含む大型先駆性樹種林(黄緑)」の範囲の保全を検討

音更川合流点下流①の川づくり案

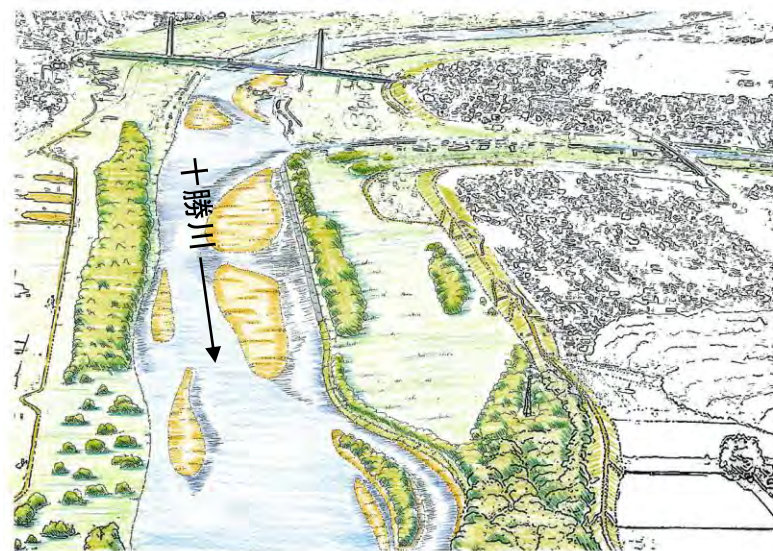
樹木伐採(黄色の範囲)

- ・河岸側10m及びケショウヤナギを含む大型樹林は保全(幅30m程度)



帯広側の河岸を掘削(幅50m→30~40m程度に低減)

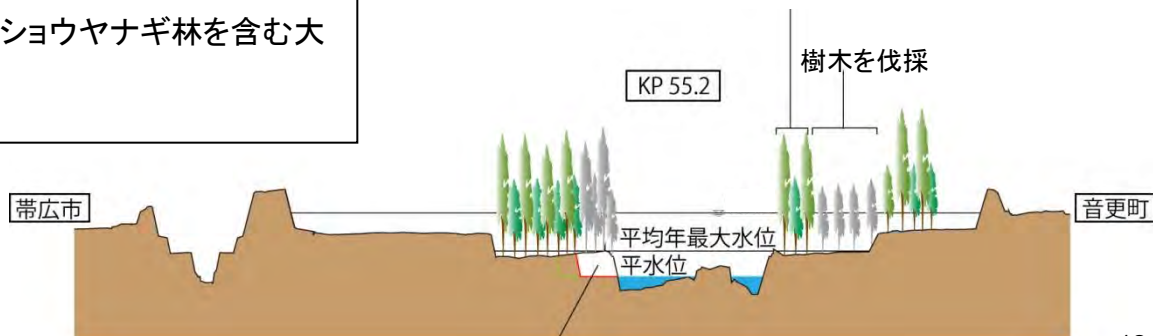
川づくり案イメージパース



川づくり案(第8回)

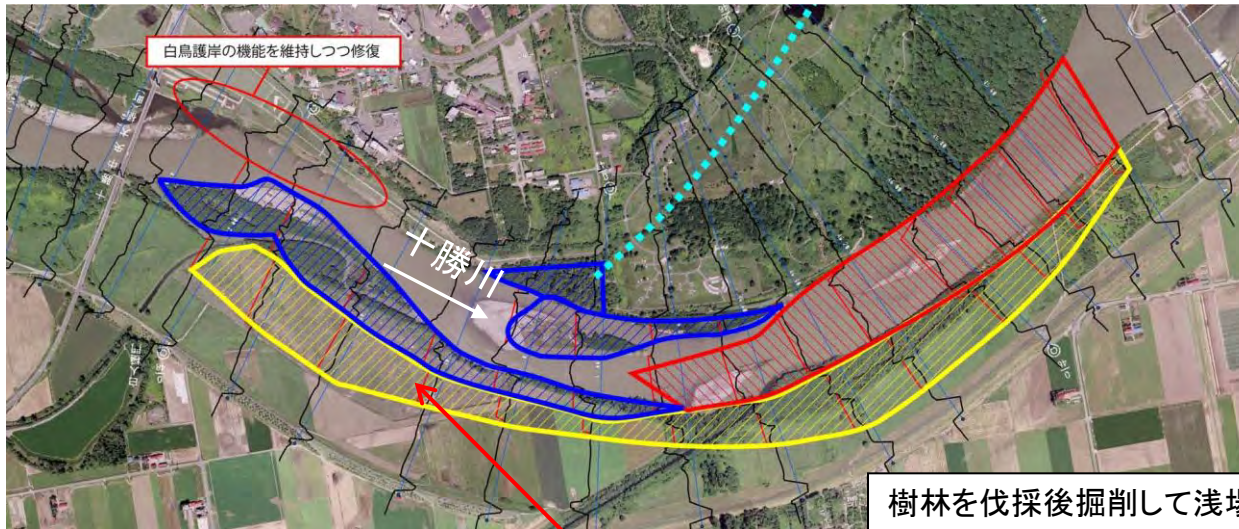
左岸側(音更側)の樹林を伐採する。
(ただし、左岸側の河岸側10m程度の樹木及びケショウヤナギ林を含む大型樹林は保全する)
右岸側(帯広側)を平水位で掘削する。

ケショウヤナギを含む大型樹林を保全(幅30m程度)



帯広市側を平水位で掘削(幅30~40m程度)

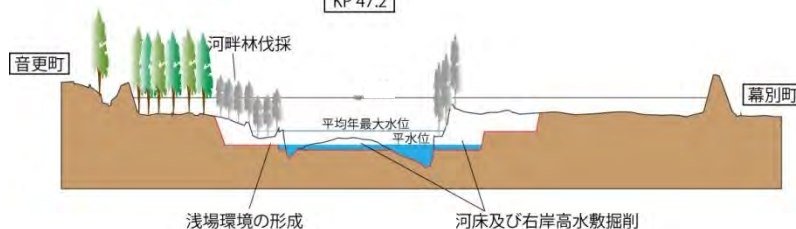
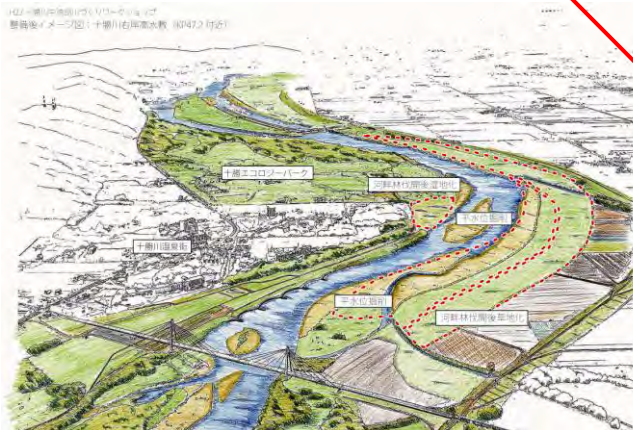
十勝中央大橋下流の検討経緯



川づくり案(第5回)

樹林を伐採後掘削して浅場環境を形成する。

川づくり案(第5回WS)イメージパース



グループ討議意見

グループ	十勝中央大橋下流
A	OK (エコロジーパーク下流のみ未議論)
B	川側の樹林を保全し その背後の高水敷を掘削
C	OK (白鳥護岸の整備希望)
論点	掘削方法を検討



第6回WS(事務局からの提案)

◆ 流下断面確保の観点から、右岸川側の樹林をすべて保全することは困難であるが、関係機関との調整も必要であり、「今後の検討課題」としたい。

十勝中央大橋下流(メン川合流点下流)

メン川におけるサケ早期降下の必要性

メン川上流に釧路十勝管内さけます増殖事業協会のふ化場があり、毎年春に稚魚を放流している。稚魚の放流に当たっては、メン川のふ化場から本川(十勝川)、太平洋まで降下する時間等を計算の下に行っているため、ふ化場から本川には速やかに降下させる必要があり、十勝川との合流点付近は、シンプルな構造とする必要がある。

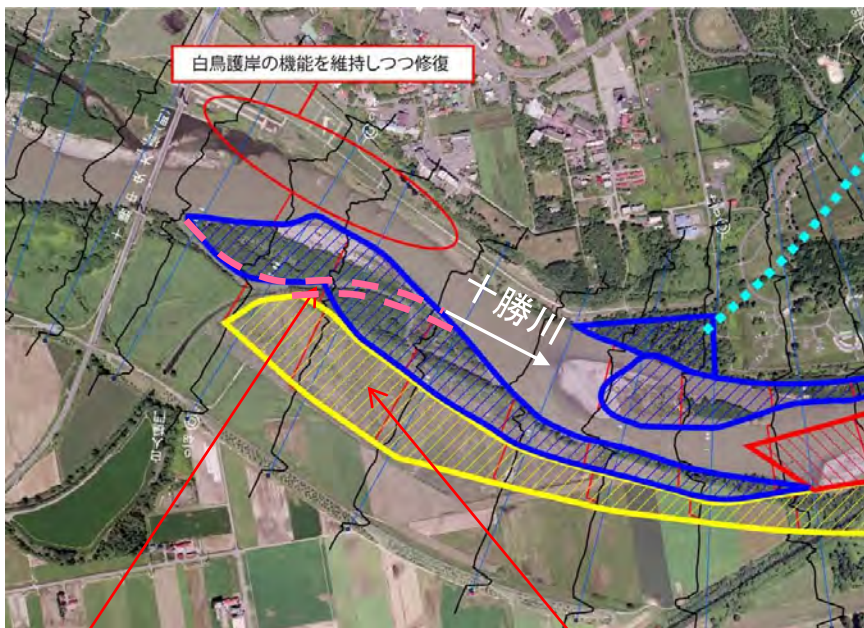
孵化場



サケ稚魚降下

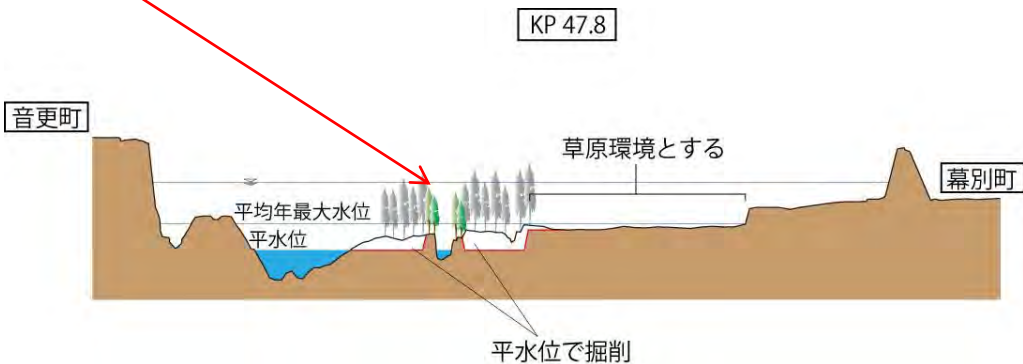
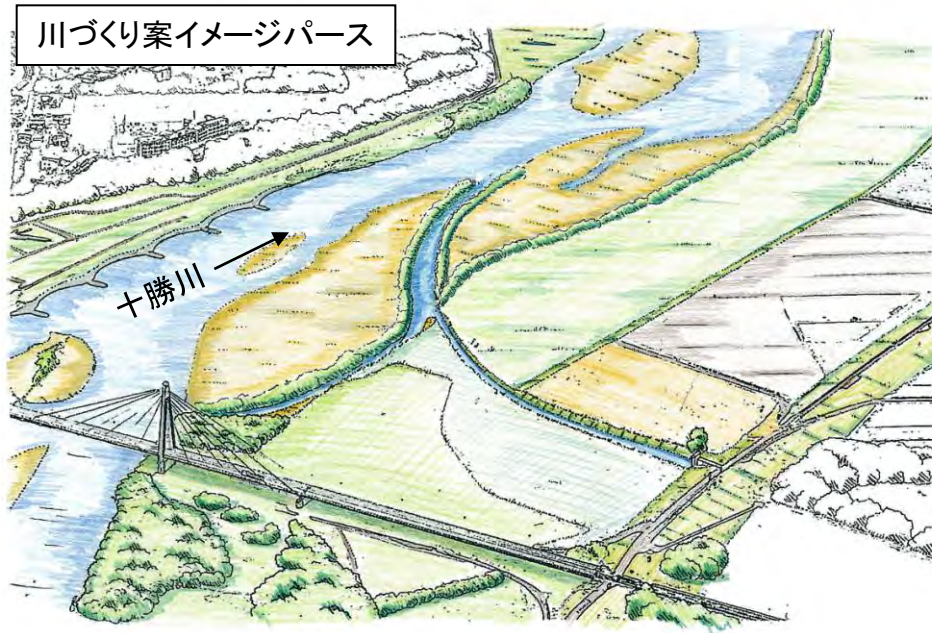


十勝中央大橋下流(メン川合流点下流)の川づくり案



メン川に続く水路沿いの樹木を幅10m程度残すことで、降下期のサケ稚魚が鳥類に捕食されにくくする。

草原環境とする



川づくり案(第8回)

メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水位で掘削する。

平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削し、再樹林化を防止するため草原環境とする。

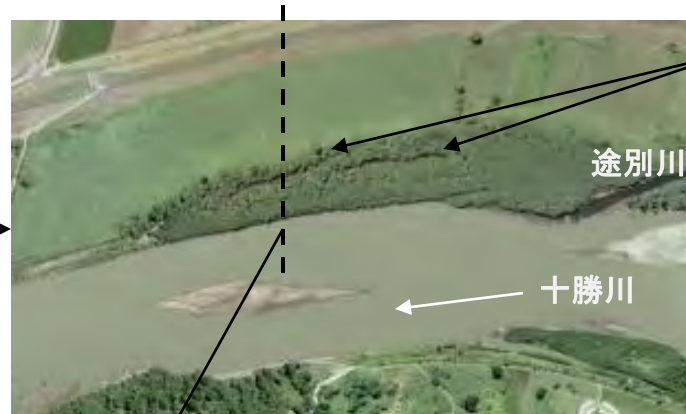
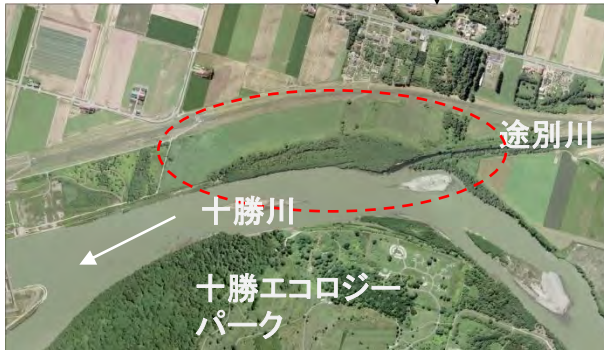
施工中などの十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残す。

十勝中央大橋下流(途別川合流点下流視察①)の現況

対象地区位置

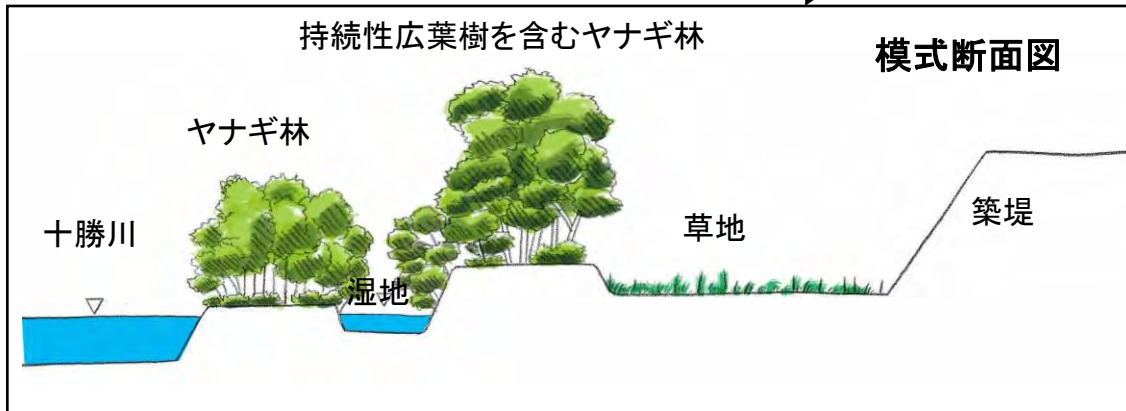


対象地の現況



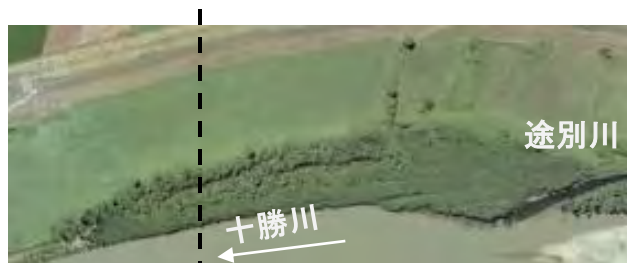
細長い閉鎖水域が2箇所
↓
十勝川の旧河道

河畔林空撮(H22撮影)



十勝中央大橋下流(途別川合流点下流視察①)の現況

河畔林の現況



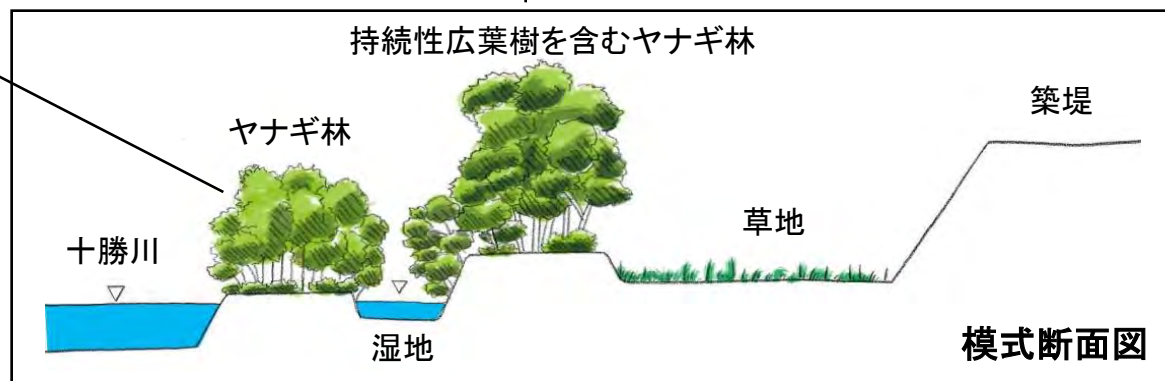
河畔林空撮(H22撮影)



ハルニレ、オニグルミ等が生育



樹林内の状況:樹齢0~20年のヤナギ林

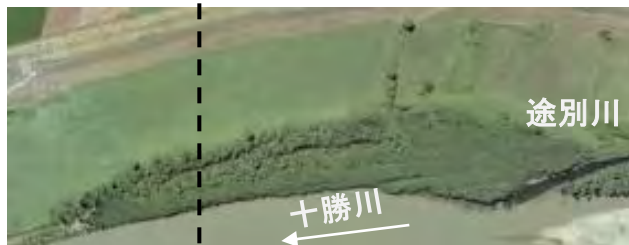


模式断面図

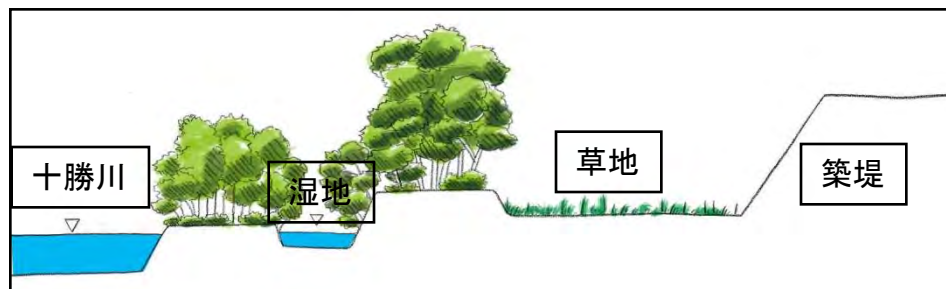
※撮影はいずれもH23年7月28日

十勝中央大橋下流(途別川合流点下流視察①)の現況

水域の状況



河畔林空撮(H22撮影)



樹林に覆われた水域(幅約10m)

水路幅が狭い水域は上部がヤナギに覆われているとともに、水面はウキクサ類に覆われており、開放水面がほとんどない。



上部が開けた水域(幅20~30m)

水路幅が広い水域は開放水面となっており、ウキクサ類も少なく、抽水植物が生育しているとともに、トンボ類の生息環境となっている。



アオイトンボ



キタイトンボ



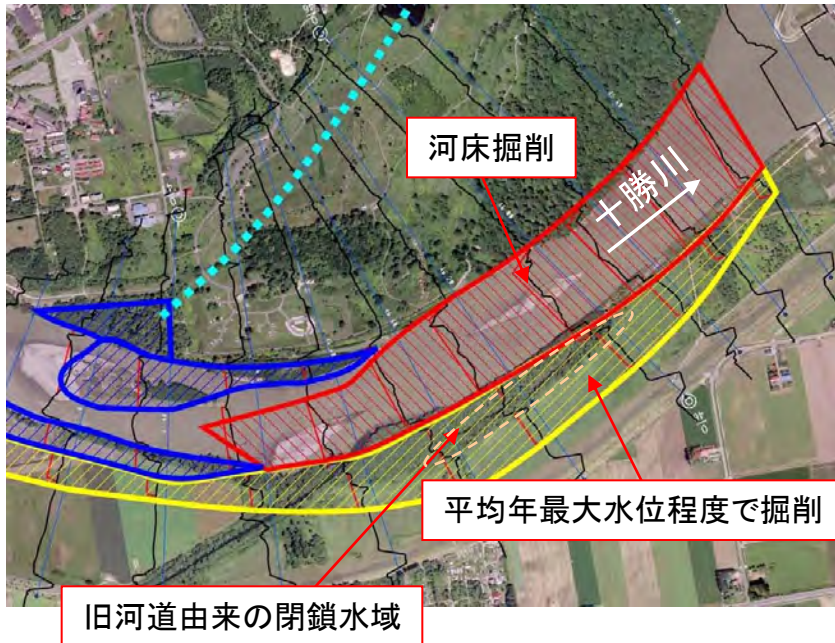
ヒメリスアカネ

※撮影はいずれもH23年7月28日

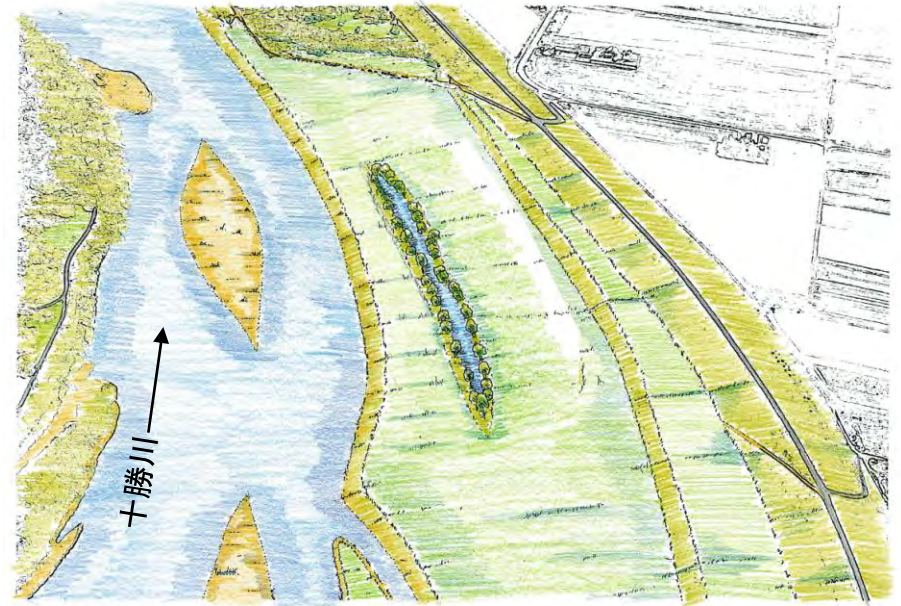
北海道RDB希少種

十勝中央大橋下流(途別川合流点下流視察①)の川づくり案

第1案



第1案イメージパース



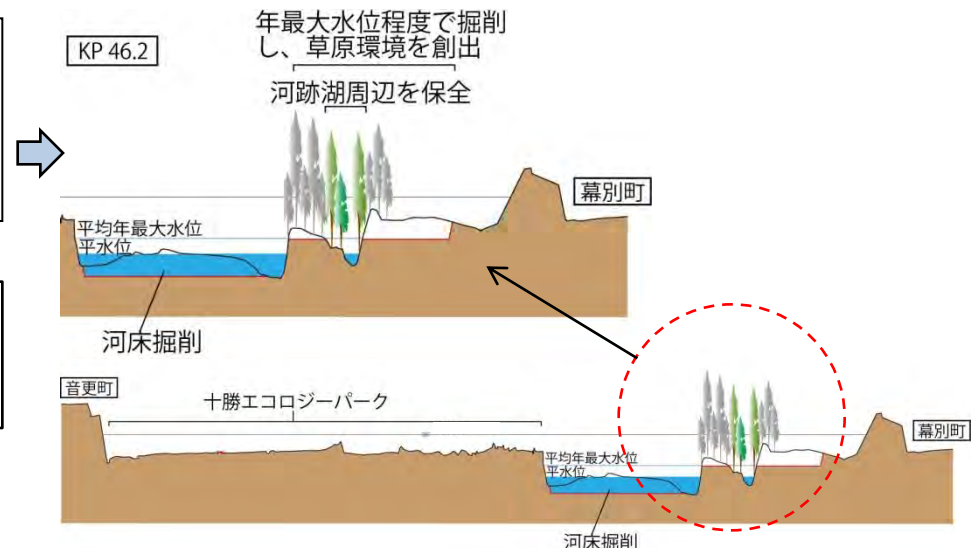
○旧河道由来の閉鎖水域を保全する案

右岸側の平均年最大水位程度で掘削するにあたり、掘削に影響しない、閉鎖水域とその周辺の樹林を保全する。

掘削した高水敷は草原環境とする。

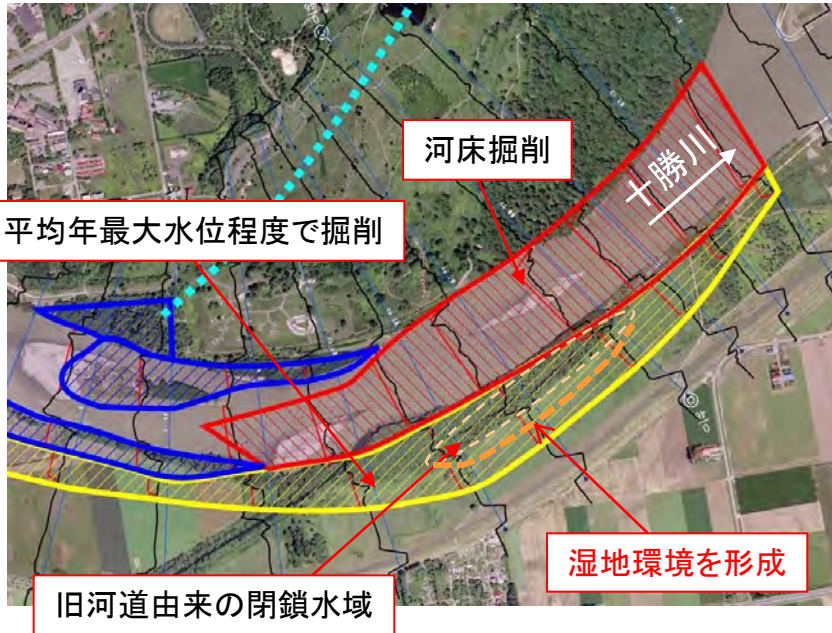
特徴

・水域については、概ね、現況の環境が保全される。



十勝中央大橋下流(途別川合流点下流視察①)の川づくり案

第2案



第2案イメージパース



○現況の閉鎖水域を掘削して湿地環境を広げる案

右岸側を平均年最大水位程度で掘削。
さらに、現況の水域より堤防側を平水位より低い高さで一部掘削し、湿地環境を広げる。

特徴

- ・浅い水深の湿地が出現することで、タンチョウやサギ類、シギ類の生息が期待できる
- ・開放水面となることでトンボ類の生息環境が増加する
- ・現況の水域の環境が大きく変わる

